

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名：権藤 智之 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 木造建築構法に関する構法計画上の研究課題を推進する。</p> <p>1) プレカット機械・CAD-CAM ソフトに関する研究会を開催し、木造建築構法関連分野の広がり、加工機や CAD の分野での近年の進展に関する研究に関する情報を収集する。</p> <p>2) 民家の建築計画研究に関する研究会を開催し、民家を対象に 研究 する計画系の研究成果に関する討論を通じて、構法と使われ方の両面から民家を捉え、両分野の民家研究の進展に寄与する。</p> <p>3) 内外の研究者による木造建築構法関連の研究成果発表会を行い、最新の研究成果を共有するとともに、今後の研究の方向性を見出す。</p> <p>2016 年度：在来木造関連技術の近年の変化に関する調査（プレカット等）、建築計画分野の民家研究者との研究会、若手の関連研究成果発表会</p> <p>2017 年度：在来木造関連技術の近年の変化に関する調査（住宅部品等）、中大規模木造建築構法に関して木材関連研究者との研究会、若手の関連研究成果発表会</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>権藤智之（首都大学東京都市環境学部） 山畑信博（東北芸術工科大学デザイン工学部） 金子晋也（札幌市立大学デザイン学部） 大橋好光（東京都市大学工学部） 後藤治（工学院大学建築学部） 小林久高（島根大学大学院総合理工学研究科） 杉本健一（森林総合研究所構造利用研究領域） 樋口貴彦（飯田市歴史研究所） 福濱嘉宏（岡山県立大学デザイン学部） 藤田香織（東京大学大学院工学系研究科） 堀江亨（日本大学生物資源科学部） 源愛日児（武蔵野美術大学造形学部） 吉田倬郎 渡邊史郎（建築研究所）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>比較木造構法 WG：日本および英米を中心とした西洋諸国を対象とし、各国の木造建築構法がどのように発達し、また他国からの影響により変質・展開していったかを横断的に明らかにすることを目的としている。木造構法を比較文化としてとらえることにより、我が国の現在の木造軸組構法住宅がその母体としている伝統的な構法と、工学的な拠り所としている外来の洋風軸組構造との関係を探り、俯瞰的や視野から日本と欧米諸国の木造構法の系譜を明確にする。</p>	
2016 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j400-12/j420-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>『日本の伝統 木造建築 その空間と 構法』(光井渉) 2017年2月24日(金、予定) 科研事業「被災・破損を起因とする建設の技術革新と 建築 様式に関する歴史的研究」との共催</p>
<p>大会研究集会</p>	<p>建築学会大会オーガナイズドセッション「木造構法の地域性を考える」 参加者数 20名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会において近年の地域材利用、特に復興公営住宅等での木造軸組構法住宅生産に関するレクチャーを行い、活発な議論を行った。 2. 計画系の研究者を招くことはできなかったが、委員外の研究者2名による民家に関連した研究会を2回実施し、計画的な側面からも議論をおこなった。 3. 建築学会大会において「木造構法の地域性を考える」をテーマにオーガナイズドセッションを実施し、研究者相互の情報共有、ネットワークの形成を行った。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の構法系小委員会との連携不足。 2. 勤務先が遠方の委員が多く、積極的な出席を望むことが困難となった。